

**「環境省3R推進デー」
報告書**

2011年11月

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ

【はじめに】

この度、環境省中国四国地方環境事務所様（以下環境事務所という）との連携により、ファジアーノ岡山の公式戦にて、冠試合「環境省 3R 推進デー」を開催することができた。環境事務所とファジアーノ岡山の連携は、2009年に続き、2度目となるが、冠を呈した大々的なタイアップを行うのは初めての試みであり、3R運動推進を幅広い層に訴求、啓蒙したい環境事務所と、地元密着を掲げ、地域社会の中でのクラブの役割を果たそうとするファジアーノ岡山との考えが一致し、連携の実現となった。

環境省は、「10月は3R推進月間」と称し、毎年3R推進活動の理解と協力を求め、循環型社会の形成に向けた取り組みを市民、団体、事業者等に対し推進している。

ファジアーノ岡山は、地元密着を掲げ岡山全域で活動を続けており、ホームゲーム開催時には、平均7200人もの入場者数を誇り、県民の関心を高く集める市民クラブとして成長を続けている。ファジアーノ岡山は一民間企業ではあるが、一方で、公共的な立場において、日頃より行政等と連携し、地域社会の一員としての役割を果たしている。

今回、環境事務所との新たな連携により、3R推進活動の一役を担うことはクラブにとって、大きな意味をもつ結果となった。試合開催以前より、新聞、ラジオ、テレビ、チラシ等を通じ、「環境省 3R 推進デー」の開催を告知することにより、3R運動の認知度向上に努めると同時に、多くの方々に関心を持って頂くことを心がけた。そして、試合当日、ファジアーノ岡山とのコラボ オリジナルエコタンブラーのプレゼントやオリジナルエコバッグの工作体験は、来場者の皆さんに3Rを身近に感じて頂き、かつ実践する機会を提供する啓発イベントとして非常に興味深かった。今後、ファジアーノ岡山の公式戦にて、来場者が、当エコタンブラーを使用し、ごみの削減に繋がることを期待し、クラブとしても、継続的に3R推進活動の一役を担えるよう、環境事務所と取り組んでいきたい。

最後に、今回、様々な形でご協力頂いた皆様に感謝申し上げ、以下に「環境省 3R 推進デー」について、纏めましたので、ご報告申し上げます。

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ

【3R 推進月間の趣旨・目的】

廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）に取り組むことで廃棄物を限りなく少なくし、そのことで廃棄物の焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らすことと、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会（循環型社会）を推進する。

【Jリーグ ファジアーノ岡山との協働について】

地元密着を実践する Jリーグチーム「ファジアーノ岡山」との協働企画により、幅広い層に訴えかかると共に、循環型社会実現に向けたライフスタイルを見直す機会を提供する。過去のファジアーノ岡山の平均入場者数は、2009年 6,162人、2010年 7,161人。

【実施概要】

名称： J2リーグ戦第32節「ファジアーノ岡山 vs 愛媛 FC」
日時： 2011年10月23日（日）
3R イベント開始： 10：00～
キックオフ： 13：00～
会場： kanko スタジアム（岡山県総合グラウンド）
岡山県岡山市北区いずみ町2-1-11
入場者数： 7,283人

【活動内容】

3R 推進に関する理解と協力を求め、循環型社会の形成に向けた取り組みを推進するため、ファジアーノ岡山とのタイアップにより、3R 推進活動の認知度向上を図り、市民1人ひとりがライフスタイルを見直すきっかけを提供する。

1. 認知度・理解向上の為の活動

<冠試合の開催：環境省3R推進デー>

J2リーグ戦第32節「ファジアーノ岡山 vs 愛媛 FC」戦で、「環境省3R推進デー」と称し、公式戦を開催する。この冠試合により、事前告知によるパブリシティ機会を増やすと共に、試合開催に向けた告知ビラ並びにマッチデープログラムで「環境省3R推進デー」の冠名称を記載、3Rの認知度と理解の向上を図る。

(添付資料)

- 告知チラシ (添付資料 1)

配布場所：岡山駅（10月21日（金））、行政、前節試合会場他
※チラシに冠名を記載することにより、3Rの認知度向上を図ると共に、チラシ配布による来場促進で、当日の効果最大化を狙う。



(倉敷市役所でのビラ配り)



(前節 (10/19) でのビラ配り)



(告知ビラ)

- マッチデープログラム（添付資料2）

配布場所：試合当日、来場者全員（前節と当該試合の2回）

※マッチデープログラム内での記載により、認知度と理解の向上を図る。



（マッチデープログラム）

<メディアによる告知>

マスメディアによるパブリシティを通じた「環境省3R推進デー」の告知および認知度向上。

- 新聞： 山陽新聞（10月22日（土）、県内45万部発行）
（添付資料3）



（山陽新聞 2011.10.22）

- ラジオ： 山陽放送 「vola ファジャーノ」
FM岡山 「子どもたちに夢を！ファジBOX」
（添付資料4：進行台本）
エフエムくらしき 「ファジャーノ白書」

- テレビ：スカパーJリーグ中継
前節（10/19）「岡山 vs 鳥取」戦のハーフタイム中にクラブ告知コーナーにて、「環境省 3R 推進デー」を紹介。
- インターネット：ファジアーノ岡山公式ホームページでの掲載



<試合会場での告知>

当日の来場者（7,283 人）に対し、効果的に 3R 運動の理解と協力を求め、啓蒙するため、大型映像装置に常時「リデュース・リユース・リサイクル 10 月は 3R 推進月間です。（中国四国地方環境事務所）」の文言を掲載した。この大型映像装置は、来場者が試合経過等、頻繁に見るものであり、そこに常時掲示できたことは、効果が高いと考えられる。

また、同映像装置に CM を放映し、来場者への訴求・啓蒙を同時に行った。（キックオフ前 2 回、ハーフタイム 1 回、各 15 秒）

さらに、キックオフ前、「環境省 3R 推進デー」の冠名称をスタジアム DJ によるアナウンスにて告知し、冠試合の訴求に努めた。（9 回）



（帯広告による告知）



（CM の放映）

(アナウンス原稿)

<冠試合アナウンス>(計7回)

本日は、2011 Jリーグディビジョン2 第32節 環境省3R推進デー
ファジアーノ岡山 対 愛媛 FC です。

<冠趣旨説明アナウンス>(計2回)

それでは、ここで環境省3R推進デーのご紹介です。

10月は3R推進月間。3R活動とは、ごみの発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再資源(リサイクル)に取り組むことでごみを限りなく少なくし、そのことでごみの焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らすことと、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(循環型社会)を推進する活動です。

みんなで3Rに取り組みましょう!

それでは、イベントのご紹介です。

本日は環境省3R推進デーということで様々なイベントを開催しています。

まずは、スタジアム前広場、環境省3R推進キャンペーンテントでは、環境省とファジアーノ岡山のコラボエコタンブラーを、アンケートにお答えいただきました方、先着で300名様にプレゼントしています!

そして、同じく環境省3R推進キャンペーンテントでは、先着250名様に、オリジナルの自作エコバッグが作れる体験コーナーを開催しています。

色クレヨンでカラフルなオリジナルエコバッグを作ってみませんか? 付属の型紙を使えばどなたでも簡単に書くことができます!

是非ご参加ください!

2. ライフスタイルの中での3Rの実践

<ファジアーノ岡山コラボ オリジナルエコタンブラーの配布>

ファジアーノ岡山とのコラボレーションによる「環境省3R推進デー」オリジナルエコタンブラーを制作。アンケートに答えて頂いた来場者先着300名様にプレゼントした。試合会場にて、当エコタンブラーの使用によるごみ削減の具現化を図る。(尚、当エコタンブラーを使用するのビール購入者には50円引き)

なお、当日は先着 300 名に対し、配布 30 分前には、400 人以上の人が待機列を作り、興味・関心の高さが伺えた。今後、フアジアーノ岡山の公式戦において、当エコタンブラーを持参する人が増え、3R 運動の実践が継続されることを期待する。



(オリジナルエコタンブラーに並ぶ人たち)



(オリジナルエコタンブラー)

<オリジナルエコバッグ工作体験>

自分だけのエコバッグを作成。出来たエコバッグを持ち帰り、ごみの発生抑制（リデュース）を実践する。

体験者の中には、家族連れが多く、小さな子どもがお父さん、お母さんと共に工作体験をし、3R について考える機会を提供することができた。この工作体験（先着 250 名様）も、キックオフ前には全てが終了し、興味・関心の高さが伺えた。



(オリジナルエコバッグ工作体験)



(オリジナルエコバッグ)

【まとめ】

環境省中国四国環境事務所様とファジアーノ岡山とのタイアップにより、「環境省 3R 推進デー」を開催することができた。

この「環境省 3R 推進デー」開催に伴い、一定期間、事前告知活動を実施し、「3R 推進活動」の認知度と理解の向上を図った。また、試合当日は、ファジアーノ岡山とのコラボによるオリジナルエコタンブラーをプレゼントし、エコバッグの工作体験機会の提供により、参加者への関心を喚起できたことは、ひとつの成果であった。

今回のタイアップは、ファジアーノ岡山を通じ、パブリシティを利用した（マスメディアやビラ配りを含めた）告知活動と当日の 3R に関するイベントが融合された啓蒙活動であり、非常に興味深いものであった。

今後は、参加者によるエコタンブラーの使用を継続を期待し、ごみの削減を心がけると共に、継続的な 3R 推進活動のため、環境省中国四国環境事務所との連携を深めていきたい。

以上